# ちかい

2019
お盆号
VOL.156
浄土宗西山深草派宗務所
総本山　誓願寺

## 誓願寺所蔵
## 豊臣秀吉画像

**絹本着色　桃山時代**

作者は狩野永徳の長男・狩野光信と見なされる。秀吉画像の制作は、秀吉の没した慶長3年（1598）から慶長6年に集中し、礼拝供養用の神像（豊国大明神）として描かれたため、肩肘を張った堂々たる体型に誇張されている。中でも誓願寺所蔵の画幅は代表的な作品で、厳然たる風格は他を圧倒している。誓願寺を再興した秀吉の側室・松の丸殿が奉納したものと推測される。

◆目次◆

●開宗八百五十年に向けて④
●賢問子行状記㉖
●松の丸殿と誓願寺
●お釈迦さまの十大弟子16
●インドドタバタ夫婦道中記㊿
●総本山誓願寺だより
●何でも“お寺探偵団”Vol.54
不捨山　念仏寺

# 開宗八百五十年に向けて④

布教師会　杉浦正志

## 夢の二祖対面

「法然上人さま、おはようございます」

朝のお念仏「南無阿弥陀仏」の名号を「法然上人と一緒に称えさせていただきたい」が私の叶うことのない、しかし叶えたい夢です。

平安時代の承安五年（一一七五）、法然上人とは約五百年以上も年代が違う中国の唐時代に活躍された善導大師が、お釈迦さまのお説きになった「観無量寿経」を注釈された『観経疏』の一節に出会われ、「お念仏だけですべての人が救われる」と確信を得られ、法然上人四十三歳の時、それまで日本仏教にはなかった、お念仏を中心とする宗旨「浄土宗」を新たに開かれました。あと五年後の令和六年（二〇二四）には、開宗八五〇年を迎えます。

開宗された数年は、色々な不安もあられたと思いますが、そんな、法然上人はある夜、夢を見ました。一つの大きな山があり、その頂上は、限りなく高いものでした。北から南へ連なっており、西の方を向いたような様子をしておりました。山のふもとに大きな川があり、青い水は北から南に、波うって流れていました。河原がはてしなく広々としており、土手の木々は数限りなく広がっていました。山の中程まで登って、遠く西を見れば、地上から十五メートルばかり上がった空中に、ひと群がりの、紫の雲がたなびいているではありませんか。紫の雲は法然上人の所に飛んで来ました。不思議なことだと思っていると、紫の雲の中から無量の光が現れ、その光の中から、孔雀やオウムなど宝石のような色の美しい鳥が、四方に飛び立ちました。飛び立ったかと思うと、河原に降りてきて、遊んでいました。その羽根がきらきらと輝く様子は、この上なく美しいものでした。河原から沢山の鳥が飛び立って、この紫の雲の中に帰っていきました。しばらくすると、その紫の雲が法然上人のもとにやってきました。紫の雲はゆったりと広がり、一帯をおおってしまいました。すると、紫の雲のなかからひとりの気高い僧侶が現れ、法然上人の前で立ち止まったではありませんか。その僧侶は、腰から下は金色に輝き、腰から上は墨染の衣の姿でした。法然上人は、合掌して頭を下げて、

「あなたは、どなたさまでしょう？」

と尋ねました。その僧侶は、

「私は善導である」

と答えました。そこで法然上人が、

「何のためにお越しになったのですか？」

と尋ねると、その僧侶は、

「そなたが専修念仏（浄土宗）を広めていることが、とても尊いがゆえにやって来たのである」

と言った途端に目が覚めました。お仏壇で拝まさせていただいている善導大師が、この夢のお姿です。

人間は、死ぬと善い人になると言われます。それは、私たちが阿弥陀さまのお力により極楽浄土に往生して、仏となって娑婆世界に戻ってきて苦しむ人々を救うからです。私たちのご先祖さまもありがたい仏となり、いつも私たちを見守ってくださる善い人であります。私たちも日々生活のなかで、心の助けが必要になる時があります。そんな時、今見えないご両親や祖父母の声を一言だけでも聞きたくなることがないでしょうか？私たちの周りには、ありがたい仏となられたご先祖さまが沢山おみえになります。手をあわせて「南無阿弥陀仏」と称え、お念仏で会話をし、やすらぎの心をいただくことにより一筋の光が見えてくるでしょう。法然上人も善導大師の夢のお言葉を聞き、それ以来、「浄土宗」の教えは揺ぎ無いものとなりました。その善導大師、法然上人も、私たちのありがたいご先祖さまなのです。

# 賢問子行状記 26

宝蔵寺住職　小島英裕

## 第十六話「尾上女、現益を蒙る」（後編）

夜になりました。尾上は、誓願寺の御本尊としてお祀りしている三寸の阿弥陀如来像を壁に掛け、祈りました。

「私は夫を怨み、ここまで追いかけて来るような悪い女です。今夜、谷川の淵に身を沈め最後を迎えますが、どうか未来をお救いください」

と涙を流し、お念仏を称え、阿弥陀さまに助けを求めました。しかし入水する恐ろしさに胸が塞がります。

尾上は少し眠りました。その時、阿弥陀さまが微妙のお声で告げました。

「極楽往生は疑いありません。しかしあなたの願いはあと三日待ちなさい。願いを成就しましょう」

尾上は霊夢にはっと目が覚め、

「ありがたい！阿弥陀さまのお告げだ！二、三日の間に願いを成就してくださる。まさに阿弥陀さまの大慈悲！命を捨てようとした私を哀れみくださったのだ！」

と、亭主に夢を話し、それから二人で、朝から夕暮れまで往来の中に、心月坊を探しました。その日は暮れてしまいましたが、翌日の夕方、山上より下りてくる出家者の姿がありました。尾上は遙か遠くから見て、歩く姿、年の頃より、もしかして心月坊ではないかと思いました。昔と雰囲気は変わっていますが、墨染の衣に清らかな櫛を持つ姿に、尾上は側に立ち寄り、笠を覗き見ました。間違いありません、心月坊でした。

尾上は手を取り、嬉しさと、これまでの苦しみに体が震えました。夕べは水に入り、死のうと覚悟を決めたのに、阿弥陀さまのお告げにより、もう一度逢うことができた。

しかし心月坊は尾上の喜ぶ姿に戸惑い、言葉がありません。

「私は出家して世俗を捨てた身。あなたは都に帰り、他の誰かと一緒になって欲しい。私を思い出す時は、ただお念仏を申して欲しい」

と語りました。尾上は

「これは前世からの因縁。私も墨染の衣を着て、共に出家の道に入ります。せめて衣の針仕事をさせてください。心は清らかに未来は一つの蓮の上です！」

と懐より剃刀を取り出し、黒髪をばっさりと切り捨てました。それから麓の新別所に草庵を結び、二人は念仏三昧の身となりました。未来の極楽往生は間違いありません。現世のご利益は疑いなく信じることです。　（つづく）

# 松の丸殿と誓願寺

誓願寺は天正十九年（一五九一）、豊臣秀吉の京都大改造計画による寺町通造立のため、一条小川から三条寺町の現在の場所に移されました。その移転・再興の際に大施主となったのが、秀吉の側室であった松の丸殿でした。

松の丸殿は、名は京極竜子といいます。父は近江守護代・京極高吉で、母は小谷城主・浅井久政の女、京極マリアと言われています。はじめ、若狭守護の武田元明に嫁ぎましたが、明智光秀に与した夫が秀吉に殺されると、その出自と美貌のゆえに秀吉に召し出され、「京極さま」と呼ばれました。のちに大阪城・西の丸に屋敷を与えられると「西の丸さま」と呼ばれ、さらに伏見城ができるとその松の丸に移り住んだため、「松の丸さま」と呼ばれました。

一条小川の誓願寺は、天正元年（一五七三）の火災により荒廃してしまっていましたが、慶長二年（一五九七）、移転・再興した誓願寺は、境内地は六千五百坪にも上り、本堂、開山堂、釈迦堂、三重塔、地蔵堂二宇、経蔵、鼓楼、方丈、鎮守春日社、十三仏堂、そして十八ヶ寺の塔中寺院を擁する、京都有数の巨刹の規模を誇る寺院となりました。

こうして誓願寺は、松の丸殿の大きな助力を得て、みごと再興を遂げることができましたが、松の丸殿の誓願寺再興への思いを後押ししたものとは、一体何だったのでしょうか。

松の丸殿は、秀吉の聚楽第在中（天正十五年九月から天正十九年十二月）に、讃州寺町（現在の上京区西洞院通一条下ル）にあった屋敷に住んでいました。この場所は一条小川にあった誓願寺のすぐ近くであることから、和泉式部の女人往生伝説を傾聴され、誓願寺再興への思いを確立されたのでしょう。寛永十一年（一六三四）九月一日、七十歳を越す長寿を保った後、讃州寺町の自邸で極楽往生を遂げられました。

松の丸殿の墓所は、もと誓願寺の塔中寺院・竹林院にありましたが、明治三十七年（一九〇四）、京都市東山区の豊国廟の境内に移され、今もそこで、静かに祀られています。

6月29日（土）から8月25日（日）の期間、京都文化博物館にて、「洛陽三十三所4ー信仰のかたちー」展が開催されており、今号の表紙を飾った「豊臣秀吉像」が展示されております。実物を見ることができる、またとない機会ですので、是非ご覧下さい。

**京都文化博物館**
京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888

お釈迦さまのご生涯 外伝

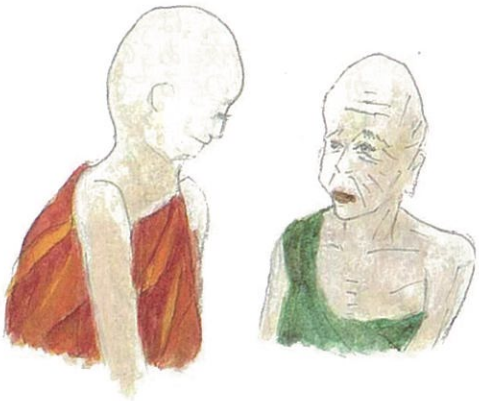
# お釈迦さまの十大弟子 16

絵・豆田織奈　文・釈尊法話会

## 論議第一の摩訶迦旃延（まかかせんねん） その3

ある時のことです、摩訶迦旃延がハラナ国のお寺で、説法しておりました。そこへボロボロの服を着て、杖をついた婆羅門（ばらもん）の老人がやってきました。腰も曲がり、年齢は九十歳を超えているように見えます。杖がなければ立っていられないほどでした。お堂の入り口に立ち、見渡しましたがどこにも座るところがありません。お堂は満堂でした。

「こんなに年を取っているワシが立っているのに、誰一人席を譲（ゆず）ろうとしない。どういうことだ」



婆羅門はお堂にいる人々に聞こえるように、嫌（いや）みたらしく言いました。すると摩訶迦旃延は、

「婆羅門よ、申し訳ないですが、あなたより若い人はここにはおりません」

と答えました。婆羅門は怒りだし、

「何を言うか！ワシは九十四歳だ。お前は幾つだ。ここにいる奴らは年長者（ねんちょうしゃ）を敬（うやま）わないのか！」

と言いました。摩訶迦旃延は、

「婆羅門よ、たとえ年齢を重ねており、八十だろうが、九十だろうが、煩悩（ぼんのう）に支配され、欲を出し、怒りを露（あら）わにするなど、若い者よりも劣ります。恥ずかしくはありませんか」

と答えました。婆羅門は、摩訶迦旃延の言葉を聞いて、はっとしました。年を重ねても気付かない自分を恥じました。

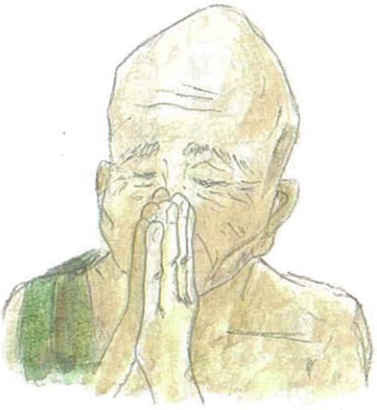
「尊者よ、間違っておりました。申し訳ございません」

婆羅門は深々（ふかぶか）と頭を下げました。それを見た摩訶迦旃延は、

「婆羅門よ、こちらにお越し下さい。私の席にお座り下さい」

と自ら座を譲り、隣で再び説法をしたそうです。

（終わり）



# インド ドタバタ 夫婦道中記 50

東龍寺 住職　岩瀬 賢良

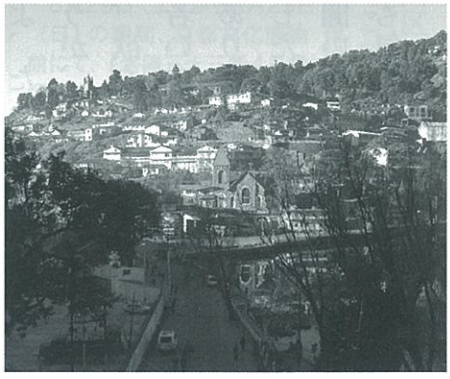
## 終着駅の一つ前で終点？・

一人旅と、複数（但し極めて少人数）の旅ではこういう状況の時に大きなリスクの差が出るのである。一人旅の場合、クロークを探しバッゲージをお金を払って預け、それからチケット売り場に向かわなければならない。一人でも相棒がいれば、それぞれ役割分担ができて余分なお金と時間がかからないのだ。それでも一人旅にこだわるのであれば、それは論外ではある。

列車の出発時間は夜の九時一五分なので、ゆっくりと駅の周りを歩きながら、珍しくインドでは大都市にしかないハンバーガーを食べ、ビスケットやバナナ、ミネラル・ウォーター、インド全土の地図やご当地ウッタル・プラデーシュ州の地図を買ったりし、夕食は駅のレストランでささやかにヴェジタリアン・ターリー（野菜だけのカレー定食）を食べ、寝台車に乗り込む用意をしておいた。

寝台列車は定刻通りラクノウ駅を離れた。僕は早朝のシュラヴァスティから、これまでの一日を、足りない頭とまだまだ動かせそうな体を使いまくったせいか、カートゴーダムの一つ手前のラルクア駅まで、寝台車の硬いベッドでもぐっすり眠ったらしく、回りのざわめきで目が覚めたのだ。朝六時四〇分、目的の駅が終点で、尚かつ終点まで行く列車だと思い込んでいた僕は、一駅手前で止まる列車だとは思っていなかったので、未だ眠っている僕の脳が理解するのには少々時間がかかってしまった。列車の時刻表を見てはいないので、非合理的なやり方に付いていっていなかったのだ。急いで寝袋をたたみホームに出ると、寒くて僕の頭は一気に覚めた。僕たちは小さな駅構内の店でチャイをすすりながら終点への列車を待った。

三月六日（水）、朝八時三七分にラルクア駅を出た列車は、終点の駅カートゴーダムに九時一一分に到着した。ナイニタールで二泊するつもりで、この駅で八日のデリー行きのスリーパー（寝台車）の切符を二人分二七八ルピー（約七〇〇円）で買った。出発した駅ラクノウやデリーなどの大きな駅と違い、ローカルの小さな駅は、戸惑わなくてもいいのが楽である。窓口は一つしかないのだから・・・。しかし、滅多にない手回しのよさが、後で後悔する事になるとはその時、思ってもいなかった。



ナイニタール湖周辺の景色

# 総本山誓願寺だより

## 精霊送り・盆施餓鬼のご案内

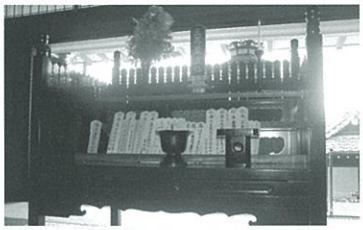
八月十六日（金）、総本山誓願寺では、精霊送り・盆施餓鬼法要をお勤め致します。お盆の間、里帰りされていたご先祖さまをお浄土へお送りする行事です。この日京都では、大文字で有名な五山の送り火が行われます。誓願寺へのお参りに合わせて、五山の送り火観光へお出掛けなさってはいかがでしょうか。

**○施餓鬼法要**

**令和元年八月十六日（金）**

法要は御一霊様三千円。十一時・十五時・十八時の時間にて承っております。

また、施餓鬼棚へ水塔婆をお供えする、水塔婆供養（御一霊様三百円）も承っております。



## お盆期間中の本山納骨について

お盆の期間（八月十日～八月十六日）、誠に申し訳ございませんが、本山納骨のご予約を受付することができません。何卒ご了承頂けます様、お願い致します。

## おもな行事予定

**八月**
- ●十五日(木)　六阿弥陀功徳日
- ●十六日(金)　精霊送り・盆施餓鬼
- ●十九日(月)～二十日(火)　少年少女参拝団

**九月**
- ●十八日(水)　開山歴代忌・六阿弥陀功徳日
- ●二十日(金)～二十六日(木)　秋彼岸

**十月**
- ●六日(日)　策伝忌
- ●八日(火)　六阿弥陀功徳日
- ●十日(木)　数珠供養会

**十一月**
- ●二十日(水)　西山忌
- ●二十四日(日)　六阿弥陀功徳日
- ●三十日(土)　総本山誓願寺　法主晋山式

**十二月**
- ●一日(日)　仏名会
- ●八日(日)　成道会
- ●二十四日(火)　お身拭い式・六阿弥陀功徳日
- ●三十一日(火)　除夜の鐘

## クイズコーナー

【問題】

4頁松の丸殿と誓願寺より、松の丸殿の母の名前は何でしょう？5文字でお答えください。

○○○○○

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺（だんな寺）、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご連絡差し上げます。名前の掲載が困る方は、その時にご返事下さい。今回は、念仏寺さまより御木幽石氏作「お地蔵さんイラストミニ額」を5名さま、本山謹製線香を5名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒四四四－三五〇五
愛知県岡崎市本宿町東木竹十六番地
欣浄寺内　ちかい編集係

【締切】九月三十日
（消印有効）

答え　○○○
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺（だんな寺）
感想・質問等

ちかい　第156号

発行日　令和元年七月五日
発行所　浄土宗西山深草派
総本山誓願寺
京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電　話　（〇七五）　二二二－〇九五八
ＦＡＸ　（〇七五）　二二二－二〇一九
E-mail　info@fukakusa.or.jp
URL　http://www.fukakusa.or.jp/

# 何でも お寺探偵団

念仏寺 Vol.54

**profile**

## 團野和道師（念仏寺 第28世）昭和49年5月24日生まれ 45歳

兵庫県多紀郡丹南町（現在の丹波篠山市）の在家に生まれる。埼玉大学教育学部卒業後、父が経営する司法書士事務所に勤務。母が丹波誓願寺の先々代住職の娘だったことがご縁となり、團野家の菩提寺でもある念仏寺の後継に請われ、出家得度。本山で随身僧、職員として4年間に渡りお仕えした後、帰山し、住職を務める。

今回は兵庫県丹波篠山市の「不捨山 念仏寺」を訪ねました。

### Q1 お寺の歴史を教えてください。

天正6年（1578）、織田信長の命を受け、明智光秀により「丹波攻め」が為されました。その兵火により、丹波八上城城主・波多野秀治公の家老であり、現在の丹波篠山市大山下伊出屋地区にあった出合城（大山城）城主・長澤伯耆守の菩提寺である常楽寺が焼失しました。その際、本尊の阿弥陀如来像を持ち出し、蔵匿しました。

正保元年（1644）、悟空達道上人が、その阿弥陀如来像を現在地に安置し、本尊として祀り、当寺を開山したと伝えられています。

### Q2 お寺の宝物を教えてください。

ご本尊阿弥陀如来立像は鎌倉時代の名仏師康俊の作と伝えられ、昭和42年に多紀郡丹南町（現在の丹波篠山市）の文化財指定を受けています。

### Q3 お坊さんとしての心がけを教えてください。

親しみやすい僧侶であるよう心がけています。檀家さんなどに相談を受けた際には、自身が「聞き手」となる事を第一にしています。やり取りの中では、相手の「気づき」や「発心」が生まれる事を大事にしています。

### Q4 座右の銘は何ですか？

中国の故事「人間万事塞翁が馬」です。人生はいつ、何が起こるかは予測のつかないことです。

どのようなときも一喜一憂せず、平常心を保ちたいものです。

### Q5 「ちかい」読者に何かいただけませんか？

御木幽石氏作「お地蔵さんイラストミニ額」を5名の方へ差し上げます。

【交通】
JR篠山口駅より車で約15分
舞鶴若狭自動車道
丹南篠山口I.C.より車で約15分

【主な行事】

| | |
|---|---|
| 正月年始参り | 1月1日 |
| 花まつり | 5月8日 |
| 初盆施餓鬼法要 | 8月19日 |
| お十夜法要 | 11月11日 |

【お問い合わせ】
念仏寺
〒669-2824
兵庫県丹波篠山市北野135
電話　079-596-0319
FAX　079-506-3481

◀初盆施餓鬼・施餓鬼棚

◀お十夜法要・供養米等

◀阿弥陀如来立像

◀本堂外観

◀位牌堂